

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502710		
法人名	有限会社 コミュニティさっぽろ		
事業所名	グループホーム みんなの家		
所在地	札幌市白石区菊水9条3丁目4-13		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成27年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170502710-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 2 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方々が日々安心して生活して頂けるようご家族とご本人の希望を聞き一人一人の状況に合わせたケアを行えるようスタッフで協力し合い対応しています。一日一日が満足して頂けるように希望に沿った食事やその日の体調、気分に合わせてすぐに対応していけるようにスタッフ同志の連携、24時間対応で相談、受診、往診が出来るよう医療との連携がとれています。又、スタッフのスキルアップの為に内部研修等にも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I .理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の届く所に掲示し、日々のケアにあたっています。新入職員に対しても、まず理念の説明、理解した上でケアにあたります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暖かい季節には近くの公園まで散歩し、近所の方や子供たちとの交流を増やし、年1回の夏祭り開催にて地域の方々の関わりをもっています。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の夏祭りでは近くの公園を使用し、地域の方々に向けて介護相談、介護技術の窓口となっています。		
4		○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括、町内会長、民生委員、近隣の企業、入居者様のご家族による会議を2ヵ月に1回、状況報告、災害対策、学習会をテーマに意見交換を行ってサービス向上に向けています。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各書類の記入などの不明な点は市、区の担当の方に相談したり、保護課の方々とも情報交換、相談を行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束、虐待防止徹底する為、研修会に積極的に参加し、理解した上で実践しています。夜間は防犯の為、施されますが、日中は自由に出入り出来ます。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員高齢者虐待防止法など研修に参加し、知識を得た上で報告、話し合い虐待が決しないように注意を払い、転倒の危険性がある方も、ご家族と相談、検討し、見守り強化と、ご本人の自由を尊重するケアを心掛けています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習を弁護士を招いて知識を学び、地域の方々と共に意見交換し、必要に応じて活用出来るよう理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の作成契約時には、必ずよみあげ疑問点がないかを確認し、説明した上で十分な理解と同意を頂いた上で署名を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所では1階の玄関入口、各階の玄関に意見箱を設置しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、代表者、管理者、職員参加の職員会議を開き、それぞれの意見、提案を出し、皆で話し合いをし、すぐに反映出来るよう努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各ユニット会議には出席し、管理者や職員それぞれの現状を常に把握し、希望、要望に沿っていけるよう環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については、その都度、職員に案内し参加を促している。又、3か月に1度は内部研修を開催し、各ユニット職員と共に、色々なテーマで話し合い、意見を出し合う場を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や管理者会議など、様々な会議に参加し、情報交換を行い、質の向上に活かすよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15	8	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、ホームの様子も説明、見学して頂きご本人様の希望や不安な事などを聞き、安心して入居して頂けるよう対応に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や悩み事を軽減し、ホームの見学を行って頂きながら、取り除けるよう細かく話し合い、又、いつでも相談にのれるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談では、ご家族様や他の施設職員より、ご本人様の状況の情報を得て、その時の必要な支援、希望を取り入れ、ケアの方向性を見極めながら準備し進めていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるよう家庭的な場所ということを常に念頭におき、一人一人と家族であり、その中の介護であるということを意識しながら関わられるよう努力しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には、日常の生活の様子や身体の状況についてお話ししています。広報にも近況の様子や写真を貼ってお伝えし、行事には参加の呼びかけもします。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知り合いからの贈り物に対するお礼の電話かけの援助をしています。又、会話に大切にしていた思い出等を盛り込んでお話しさせて頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に過ごせる時間や空間を作り、食卓テーブルでは皆で集まり、お茶を飲みながら楽しく会話をしたり、新聞の読み聞かせなどを行い、又、孤立しないように席の配置なども配慮し、関わり合えるよう行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、ご家族様より、手紙や連絡などありましたら、その都度、対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望がある時はなるべく取り入れられるようご家族様に相談、報告を行い検討します。又、これまでの生活歴ご家族様の意向を含めて検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴について、ご家族様、関わってきた方々からの情報、本人との会話、日々の様子を把握し、その方に合った暮らし方が出来るような支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の心身の状況を確認、記録して食事、排泄、夜間の状況など、全てにおいて把握出来るようになっていきます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、会議でモニタリングを実施し、ご家族からの意見、要望も取り入れ、その人がより良い生活が送れるよう話し合い改善し、介護計画作成に取り組むようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を細めに記録し、申し送り、引き継ぎなどで伝達、連絡ノートを活用し、新しい情報の共有、会議での話し合い対応策の検討し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の希望に出来る限り添えるように代表に相談したり、様々な機関への相談、検討し最前のサービス提供が出来るように努力しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な行事に地域のボランティアへ依頼し、日々の暮らしが穏やかで楽しめる様な支援の提供に心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による往診、週1回の訪問看護による健康管理、又、不定期による通院支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に在籍する看護師や訪問看護師に相談したり、現状を確認して頂いています。必要に応じて往診先に連絡し指示を仰ぎ、その都度対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が頻回に面会を行い、入院先の看護師や医師と情報を頂き、把握するとともに普段利用している病院が同じ所が多いため関係が作られている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合の対応に関する指針、終末ケア対策方針」の説明を行い、ご家族様の希望を重視するとともに病院との連携もとれ、職員の経験もあることから出来る最大限の支援の方向性を示している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の研修に参加し、会議なのでの共有を行っている。病院側との急変時対応の話し合いを都度行い、職員、周知の徹底を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施、日中、夜間想定訓練も行い、災害時に備え、近隣企業への協力を依頼し、119緊急通報システムの設置、緊急連絡網の整備も整えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の人格を理解し、それぞれのプライバシーを尊重しています。声掛け、対応の仕方にも注意し、それぞれのプライドを傷つけない対応するよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	少しの時間でも、入居者との会話の中で希望している事、思っている事を傾聴し自己決定が出来るような声掛けで対応しています。服を選ぶ、飲みたいものを決めるなど選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせ、その都度、希望を確認しながら、少し横になりたい時は臥床して頂いたり、天気の良い日は、散歩したり、入浴したりと、その時のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれが使い慣れた化粧品を使用し、アクセサリを身に付け、それに合った衣類と一緒に選んだり、家族の希望を確認しながら、髪型を決め、身だしなみやおしゃれに配慮しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の誕生日は好きな物を聞いて、献立を組んでいます。又、盛り付けや食材を切ったり出来る方には一緒にいき、下膳も行って頂きます。それぞれの力に合わせて行って頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を、毎日記録し、栄養バランスのとれた食材の工夫、使用した献立作り、個人に合わせた塩分などの味付けに気をつけ、刻みやトロミを使用し、工夫し提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアを実施。見守り、声掛け、援助を行い、口腔内の確認、義歯は洗浄剤を使用し、清潔に努めます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄パターン把握の為、確認表を使用し、出来るだけ自力排泄が出来るよう、排泄サイクルを確認し、援助を行います。又、なるべくトイレで行って頂く為、個人の力に合わせ、職員2名での援助も行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やヨーグルトをせ摂取して頂いたり、体験やリハビリなど体を動かし、食事にも気を付け、バランスのとれた食材を取り入れ、排泄を促しますが、下剤や坐薬でコントロールも行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があればすぐに対応出来るようにし、その日の体調や状況に合わせて入浴支援を行います。拒否のある時は時間や職員を変えて声掛けし行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長時間の座位は疲れるので希望時は都度対応し、体調や一人一人のペースに合わせ、臥床して頂き、休んで頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がいつでも確認、把握出来るよう全員分の処方内容をファイルし、保管、変更時は申し送り時、ノートに記載し、又必ず確認出来るよう細めにメモを貼り情報の共有、変更後の観察も必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の状態に合った内容を見極め掃除やリハビリを兼ねて希望される洗濯たたみなどを一緒に行っています。楽しみにしている歌のテレビを見て踊ったり、個々に合わせ、楽しみをみつけ日々を過ごしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏になると、ご本人の希望に合わせ散歩やドライブに出掛け花見等、地域交流も兼ねて外出する機会を増やしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に管理している方もいますが、ほとんどは職員が管理し、お金の収支記載しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置出来るようになっていますが、電話のない方は、いつでも事務所の電話を使用出来るようにしている。又、手紙の書けない方には代筆もしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には広く、常に清潔に努め、食卓を含め自由に集える場所を設置しています。壁には季節の装飾、写真、花などを飾り、華やかな雰囲気作りに努め、居心地良く過ごせるよう工夫している。室温や湿度にも日々、配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座れる椅子やソファを設置し、テレビを見たりソファで長くなったり、又、食卓テーブルには、入居者様が集まり会話されたりと、それぞれが自由に過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔馴染みの家具や家族との写真、大切にされている物の持ち込み、冷蔵庫や電気機器の設置も可能になっており、一人一人の心地良い空間作りに努め、プライバシーにも考慮され、のれんを各入口に設置されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、台所、各居室には、それぞれが見やすく、大きな字で書いた張り紙があり、壁に沿った手すりの設置や、全てのバリアフリーによって、安全性を考慮されています。		